誰もが輝くまちへ　未来への種を蒔く予算

江東区長　山﨑孝明

本区は、昭和２２年３月に「深川区」と「城東区」が合併して誕生し、昨年、区制施行７０周年を迎えました。戦後からの復興、台風や集中豪雨による水害やごみ公害など幾多の困難に直面しながらもこれを克服し、現在では住みよさを実感していただけるまちとして発展を続けています。昨年の江東区政世論調査では、本区に「ずっと住みたい（住むつもり）」、「当分は住みたい」と答えた方の割合は９２％と、調査開始以来過去最高の定住意向となりました。今後も、こどもから高齢者までがいきいきと暮らせる地域社会を目指してまいります。

開催が近づく東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会ですが、本区はもっとも多くの競技と競技会場（２０競技・１０会場）を有する自治体として、創意と工夫に満ちたスポーツの振興や本区へ訪れる方へのおもてなしの充実といった取り組みを進めています。また、保育待機児童の解消対策、急速に進む高齢社会への対応、行財政の構造改革など、さまざまな社会経済状況を視野に入れつつ、安定的な財源確保に努め、区民ニーズと時代の変化に対応した施策展開と予算執行に努めているところです。

平成３０年度予算は、「誰もが輝くまちへ　未来への種を蒔く予算」として編成し、一般会計の当初予算規模は、１，９２９億５，２００万円で、一般会計と３つの特別会計を合わせた総予算規模は、２，９１３億２，４００万円となりました。平成３０年度も「スポーツと人情が熱いまち　江東区」のブランドコンセプトを踏まえた魅力あふれるまちづくりの実現のために、将来を見据えた積極的・戦略的な区政運営に取り組むとともに、区の長期計画における重要課題、「築地市場の豊洲移転整備」と「中央防波堤埋立地の帰属」の解決に向けても、引き続き、区民、区議会、行政が一丸となって取り組んでまいります。

平成３０年２月